2006年度研究室活動記録

2006年度講義内容一覧

【比較成人教育論Ⅰ】 担当：教授・佐藤一子

本ゼミでは今年度「コミュニティ教育」をテーマとし、前期に総論、後期には参加者各人の研究領域に引きつけた各論を取り扱うこととした。他大学や他コースの院生、研究生を含む多様な参加者があり、単なる総論のレビューに終わらない活発な議論がなされた。

【比較成人教育論Ⅱ】 担当：教授・佐藤一子

前期「コミュニティ教育」の検討を踏まえ、地域づくり教育の視野に立つ政策課題、施設論・実践論について、各自の研究テーマに即した課題を取り上げた。またこれに先立ち、初回には、佐藤先生の最新著書である「現代社会教育学」（東洋館出版社）について合評会形式での議論を行い、社会教育の言説史に沿った現代的課題の俯瞰を試みた。

【社会教育基礎論】 担当：助教授・鈴木眞理

「社会教育とは何か」という問題意識に基づき、主に1950年代・1960年代に日本で刊行された、社会教育の基本文献と言われてきたいくつかの文献の内容を検討した。各文献の論旨をふまえた上で、「社会教育」概念をめぐる議論の変遷、及びそのような議論自体の意義についても考察を加えた。

【社会教育計画論】 担当：助教授・鈴木眞理

社会教育・生涯教育に関わる施設について、主に「ハード」的な側面に焦点を当てて検討した。これまでの社会教育施設論における議論を振り返ったうえで、各参加者が自分の問題意識に基いて、諸施設の抱える課題について発表した。教育学の視点から施設の「ハード」に何が必要なのかが問われるとともに、「社会教育施設とはなにか」という本質的な問題についても議論が深められた。

【社会教育学基礎理論Ⅲ】 担当：非常勤講師・立田慶裕

OECDによる近年の研究動向を追い、生涯学習社会における成人の学習能力（キー・コンピテンシー）の把握、及び成人への学習支援の方法について、検討を行った。OECDの報告書の読解と並行して、欧米各国の成人教育の状況について発表を行い、各国で要求される能力の相違について考察を深めた。

【社会教育学基礎理論Ⅳ】 担当：非常勤講師・松田武雄

社会教育制度の後退と実践の発展という現代の状況を読み解くために、社会教育の歴史的な意味を考えることを主眼とした。ドイツの社会的教育学や日本の社会教育本質論の検討から社会教育概念の探求を試みる、福岡・北九州の公民館状況や沖縄の字公民館実践の検討を行うなど、理論・実践の双方を絡めた演習が展開された。

【生涯学習論論文指導】 担当：教授・佐藤一子

ゼミ形式として、まずＭ２の修士論文構想の検討が行われ、問題意識・研究方法の明確化がはかられた。次に、博士課程進学者に対して修士論文の成果と課題および今後の研究計画の検討が行われた。更に、学会発表の結果・投稿論文計画の検討も行われた。また、個人指導形式として、学位論文・投稿論文について議論・検討された。

【社会教育学論文指導】 担当：助教授・鈴木眞理

今年度の論文指導は、ゼミ形式及び各院生への個別指導の形式に加え、７月には合宿も行った。修士論文執筆予定者には定期的に論文構想を発表してもらい、論文の内容を深めてもらう機会とした。その他には、紀要や学会年報等における生涯学習・社会教育学関連の論文を、担当者各自の関心に沿って取り上げ、ゼミにおいて検討し、さまざまな意見交換と討議を行なった。

学位論文

＜博士論文2006年２月＞

張智恩「映画文化の創造と公共上映の発展－戦後の社会教育における映画認識と普及活動の変化－」

＜博士論文2006年３月＞

金侖貞「在日韓国・朝鮮人のアイデンティティ形成と多文化共生教育に関する研究－川崎市ふれあい館の設立と社会教育活動の展開を中心に－」

＜修士論文2006年３月＞

北川庄治「社会的ドロップ・アウト層のエンパワメントと更生・矯正のための教育－米国における薬物依存症患者更生施設ARCの実践を通して－」

柴田憲司「社会教育職員の存在意義に関する基礎的研究－戦後社会教育職員論の分析を中心にして－」

高雄綾子「ドイツにおける市民的環境教育－クラインガルテンにおける実践を中心に－」

古屋貴子「明治前期の視覚メディアと社会教育－文部省発行教育錦絵に関する考察を中心として－」

松尾富士子「スポーツの教育力と生涯スポーツ」

松橋義樹「戦後社会教育職員論の原理的問題と現代的意義」

金継紅「中国における少数民族教育政策と民族地区における影響」

金君娓「企業内教育の変容に関する考察－労働者の自己実現の観点から－」